



EDU-Port トピックセミナー(幼児教育)

日本の保育・幼児教育の特質と可能性

浜野 隆

(お茶の水女子大学)

2019年10月25日

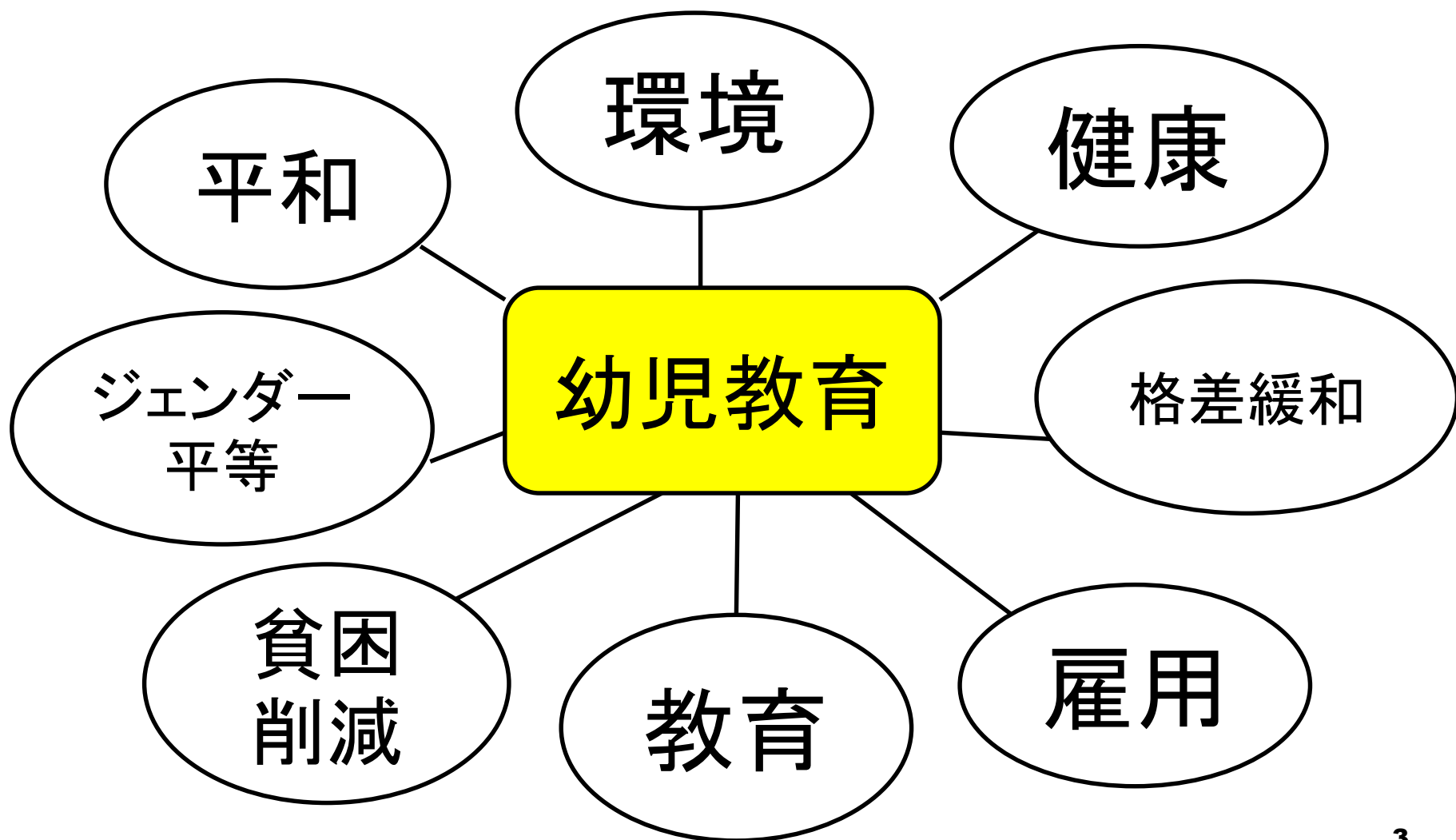
目次

- 1. 生涯発達の基盤としての幼児教育
- 2. 幼児教育と非認知能力
- 3. 「子どもの貧困」の克服に向けて
- 4. 日本の幼児教育の特質
- 5. SDGs時代の幼児教育協力に向けて
- (6. 幼児期における親子のかかわり)

1. 生涯発達の基盤としての幼児教育

- **幼児教育**の概念：①狭義：幼稚園などの施設で行われる教育、②広義：施設での教育に限定せず、家庭や地域社会での教育もすべて含む。
- **保育**：保護・保健・教育など、多方面にわたる概念。
- 保育・幼児教育（幼児期の教育）は生涯発達の基盤を形成する。

幼児教育は教育・福祉・経済・労働など多方面にかかわる重要な領域であり、SDGsの諸分野とも深く関係。



幼児期の教育

- 日本の教育基本法
- (第11条) 幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることにかんがみ、国及び地方公共団体は、幼児の健やかな成長に資する良好な環境の整備その他適当な方法によって、その振興に努めなければならない。

幼児教育＝生涯にわたる人格形成の基礎を培う

- 単なる小学校準備教育ではない
- 生涯にわたる人格形成を見据える
- 公共政策の対象である(国及び地方公共団体による振興義務)
- SDG4が目指す「すべての人にインクルーシブ(包摂的)かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯にわたる学習の機会を促進する」ための「ゆるぎない基盤」(strong foundation)づくり

日本の幼児教育に関する主な施設

- 1. 幼稚園(3～5歳)
- 2. 保育所(0～5歳)
- 3. 認定こども園(0～5歳)
- [就園状況]
- 0～2歳児の保育施設在籍率はOECD平均と比べて低いものの、3～5歳児の就園率はOECD平均よりも高い(OECD 2012)。

日本の幼児教育の政策動向

(1) 幼児教育・保育の無償化

- 日本の幼児教育は公的な財政支出が少なく、保護者の負担が大きいといわれてきた。
- しかし、本年10月から幼児教育の無償化が実現。
- 家庭の経済的負担は緩和される方向に。

幼児教育・保育の質への注目

- 幼児教育の無償化：巨額の投資。
- 教育の質を高め、政策効果をあげることが重要
- 構造の質（クラスサイズ、スタッフの教育歴、物的環境など）
- プロセスの質（保育者と幼児のかかわり、子供の夢中度、など）
- 成果の質（言語能力、計算能力、認知能力、社会情緒的発達、非認知スキル、健康など）

(2)保育のPDCAサイクル

- 保育の質を向上させるために「PDCAサイクル」「カリキュラム・マネジメント」等の考え方も導入されている。
- 指導計画(Plan)
- それをもとに実践(Do)
- 評価:実践の取り組みと反省(Check)
- 人的配置や対応、環境の改善(Act)

(3)幼児教育と初等教育の接続

- 新しい幼稚園教育要領や保育指針・保育要領
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が明示。→**事実上の幼保一元化**が実現
- 1. 健康:①健康な心と体
- 2. 人間関係: ②自立心、③協同性、④道徳性・規範意識の芽生え、⑤社会生活との関わり
- 3. 環境:⑥思考力の芽生え、⑦自然との関わり・生命尊重、⑧数量・図形、文字等への関心・感覚
- 4. 言葉:⑨言葉による伝え合い
- 5. 表現:⑩豊かな感性と表現
- 保育者が保育をする際に考慮するもの。

2. 幼児教育と非認知能力

新学習指導要領(小学校)

学びに向かう力
(非認知能力・
社会情動スキル)

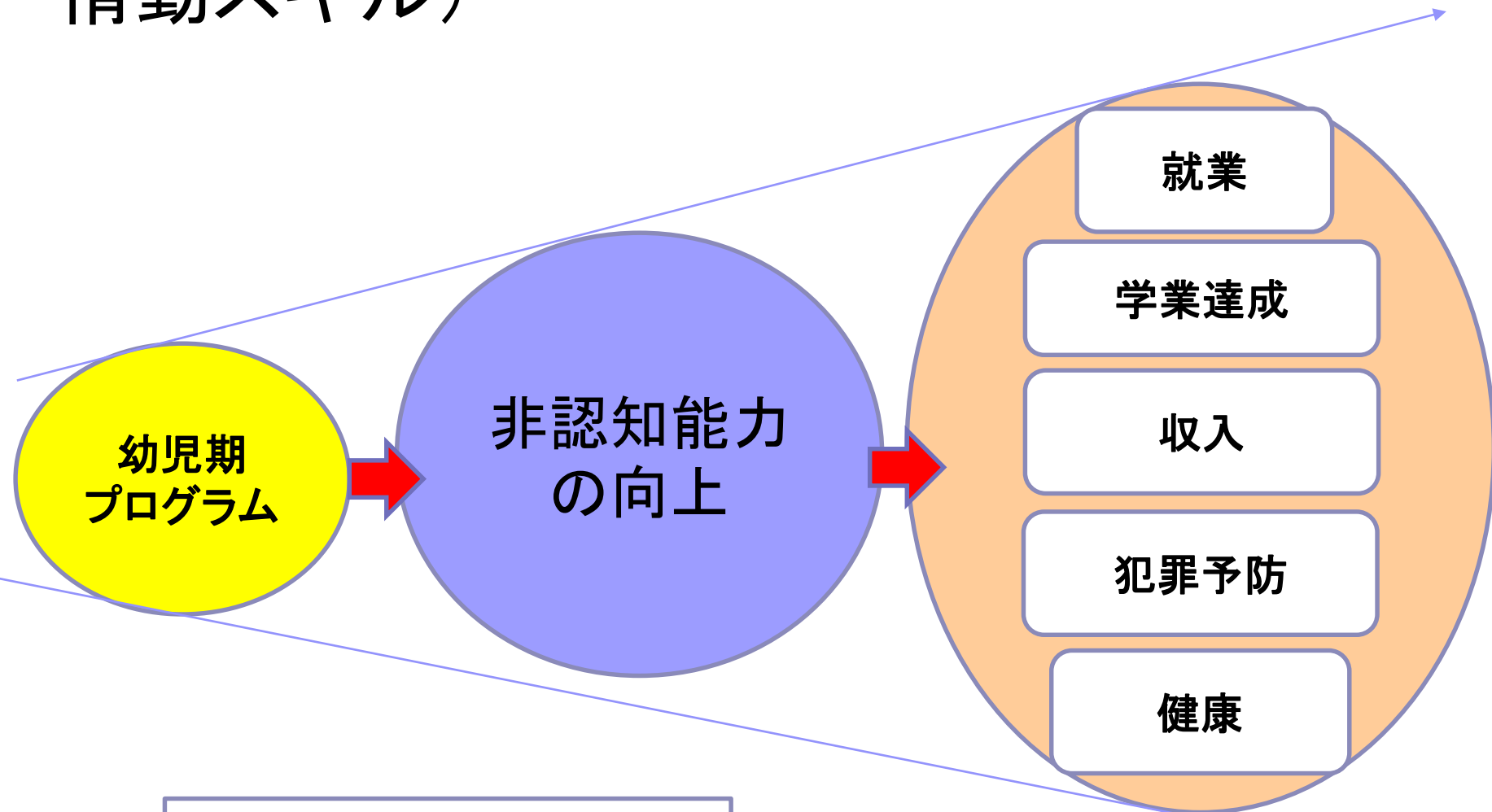
生きて働く知識・技能

思考力・判断力・表現力

持続可能な社会の創り手を育てる

- **豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手**となることが期待される児童に、**生きる力**を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体並びに各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にししながら、教育活動の充実を図るものとする。その際、児童の発達の段階や特性等を踏まえつつ、次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとする。
 - (1) 知識及び技能が習得されるようにすること。
 - (2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること。
 - (3) **学びに向かう力、人間性等を涵養**すること。

幼児期のプログラムと非認知能力（社会情動スキル）



Source: OECD(2015), Sánchez et. al (2016)

社会情動スキルを高める要因

- 気持ちの通い合う人のつながり
- いつも変わらずに応援してくれる人たちの存在
- 安心して戻れる場所
- 一生振り返ることのできる温かい記憶
- 「私には、幼稚園時代の様々な楽しい出来事の記憶が鮮明に残っており、今でもふとした時に自然と頭に浮かんできます。・・・私は、「あの幼稚園に通っていたところが自分の原点だった」と思っているのですが、そうした「温かい記憶(warm memory)」だからこそ、長く思い出に残り、折に触れて呼び起こされるのだと考えられます」
- 安西祐一郎(2018)「未来に生きる子どもたちに必要な資質・能力とは」
- (基調講演①:未来に生きる子どもたちのために～社会情動的スキルの重要性～:CRNアジア子ども学研究ネットワーク第2回国際会議講演録)

3. 「子どもの貧困」の克服に向けて

- 日本は相対的貧困下で生活する子どもの割合(子どもの貧困率)が高い。
- 子どもの貧困問題には家庭への経済支援など様々な領域からの政策が必要。
- 教育支援、とりわけ、幼児期から丁寧にかかわってケアすることが重要である。

不利の克服と非認知能力

- 家庭の経済力という「環境」だけで子どもの発達や学力が決まるわけではない。
- 家庭環境の不利を克服している子どもは非認知能力が高い(お茶の水女子大学 2018)。
- 幼児期からの適切な支援によって非認知能力を向上させ、不利の克服を手助けすべきである。

親の関与と非認知能力

- 保護者の次のような働きかけは、家庭の経済力の高低に関わらず、子どもの非認知能力を高める(お茶の水女子大学 2018):
- 子どものよいところをほめるなどして自信を持たせる
- 子どもに努力することの大切さを伝える
- 子どもに最後までやり抜くことの大切さを伝える。
- 幼児期においては、①基本的な生活習慣→②学びに向かう力→③文字・数・言葉→④学習態度(ベネッセ教育総合研究所 2015)。

日本の幼児教育も、欧米からの「輸入」をもとに形成されてきた(フレーベルと倉橋惣三)

4. 日本の幼児教育の特質

- (1)子どもたちが内から発する「主体的な活動・遊び」を重視している。
- 言語的な教育指導ではなく、「環境を通じた保育」が特徴である。
- 子どもたちが安心して自発的活動に取り組めること、遊び・活動へ「熱中・没頭」する姿を大切にしている。

遊びと学び

- 「幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習である」(幼稚園教育要領)
- 「遊び」そのものが幼児にとっての重要な「学び」に他ならないとの立場。
- 子どもが発見し発明する可能性を作り出す
- 学習の本質：単なる知識の習得ではなく、新しい知識を生み出す「発見と創造」

幼稚園教育要領

- 幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。
- このため、教師は幼児との信頼関係を十分に築き、幼児と共によりよい教育環境を創造するように努めるものとする。これらを踏まえ、次に示す事項を重視して教育を行わなければならない。

- 1. 幼児は安定した情緒の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくものであることを考慮して、幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること。
- 2. 幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として第2章に示すねらいが総合的に達成されるようにすること。
- 3. 幼児の発達は、心身の諸側面が相互に関連し合い、多様な経過をたどって成し遂げられていくものであること、また、幼児の生活経験がそれぞれ異なることなどを考慮して、幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにすること。

日本の幼児教育の特徴(2)

- 発達面として、知的な発達(認知能力)と情緒・社会性の発達(非認知能力)の双方を重視し、しかもその両面を密接に関連したものとしてとらえている。
- 子どもの気持ちの安定を重視し、また他の子どもと一緒に活動を伸ばしていく。そこにいわば埋め込まれた形で知的な発達を促そうとする。

異年齢でのかかわりと「共感性」

- 日本のある保育所：年長児が年少児を抱いて運んだり、トイレで年少児の手伝いをしている
- 異年齢保育における共感性の涵養
- 「幼児同士が世話をするのは危険と思うかもしれないが、この保育所では事故は起きていない。年少児の世話は、子どもの共感性(empathy)を養うことのできる優れた保育の在り方だ」(Joseph Tobin)。
- (Source)榊原洋一「共感性を育む異年齢保育」
- <https://www.blog.crn.or.jp/chief2/01/40.html>

集団性、共同性、社会性の重視

- 協調性の基盤
- 小学校での班活動などの特別活動が注目されることが多いが、その基盤は幼児教育で形成される
- 幼児教育における小集団の形成・自主管理
- 協力し合うことが奨励される
- 保育内容として、合唱、鼓笛隊、紅組・白組に分かれての運動会、リレーや綱引きなど**協力の必要性**を体得させるものが多い
- そうした観点から、有名な童話も書き換えられている(例:三びきのこぶた)

(出典)Hendry(1986), Lewis (1984), 市川(1988)、恒吉(2008)

- 「三びきのこぶた」
- 1ぴきめのこぶた(わらのおうちをつくりました)、2ひきめのこぶた(木のおうちをつくりました)は、オオカミに襲われます。そのあと、どうなりましたか？
- オオカミは最後、どうなりますか？

「三匹のこぶた」をめぐる日本の保育者と保護者の意識

- **保育者**対象のアンケート調査によれば、書き換え後(最初の二匹のこぶたが助かる)の作品のほうを読み聞かせたいという保育者が多い
- **保護者**対象の調査でも、「①狼が改心し、**こぶたと仲良く**共に幸せに暮らす」が最も好まれ、次いで「②悪い狼は森の中へ逃げ帰っていく」。「③原作に忠実に死んでしまう」は敬遠される傾向。
- 理由:「悪を反省し良き者になるように努力してほしい。また改心した**他者をも許す心**を育てほしいし、お話からも学び取ってほしい」「現代社会は共生の社会である。**共に仲良く**暮らせる社会でありたいから」「悪者は退治するが、残酷な場面は見せたくない」「悪は許せないが、それぞれに事情(悪事をする事情)もあるだろうから見逃してやりたい」など。

(小林・木内 2005, 橋本 1999)

保育者一人当たりの人数の多さと、 子ども同士の仲間関係

- 保育者一人当たりの子どもの数(5歳):
OECDの中で日本が最も多い
- 「日本がそれでやってこられたのはなぜかという、子ども同士の仲間関係が相互に支えあってきたわけです。」
- 「そして保育者はその仲間関係を信頼しながら保育を行うわけです」

(秋田 2016)

■ 日本の幼児教育の特徴(3)

- 生活面の自立を重視し、幼稚園で子どもが行う遊びや生活の活動の全体を通して、子どもは発達するのだととらえている。
- 教師は、特定の活動のみならず、子どもの遊びと生活の全般にわたり、指導を進める。
- しかし、その指導は上から指示を与えるというより、子どもの自発性を引き出すために、活動の示唆を与え、活動に対して助言し、また園での環境に子どもが遊びたくなるものを置くといったやり方を取る。

■ 日本の幼児教育の特徴(4)

- 教師の専門性を、指導を計画し、実行し、記録し、省察し、さらにまた計画していくというサイクルの中でとらえる。
- 中央政府や園長などが細部まで活動を決定して、教師がそれを忠実に実行するというのではなく、現場の教師に大きな裁量が与えられている。
- 国による規定は大まかな方向付けにとどまり、その具体化は個々の幼稚園と個々の教師に委ねられる。
- 教師は勝手に子どもの指導を行うのではなく、国による規定の精神を生かしつつ、指導するのだが、その指導過程を記録して、その反省から指導計画を改善していく責務を負う。

保幼小の連携

- 小学校の先生が幼保の実践に学ぶ
- 「小学校の先生が、幼稚園・保育所からも学ぼうとする事例」: 諸外国から強い関心
- 欧米やアジアでは保育者が専門職としては一段低く見られており、そこから小学校の先生が学ぶという発想がなかなか生まれない。

(秋田 2016)

- **日本の幼児教育の特徴(5)**
- 国や自治体の仕事は、主に設備の規準と教師のキャリアの確保、および保育の活動の方向性の決定にある。また、様々な助言や支援の役割を果たす。
- 幼児教育の現場に近い、また時に教師経験のある人間が行政の中でしばしば指導的な立場となっている。
- 優れた保育の実践に行政側が注目し、その要点を普及させる働きもする。

- **日本の幼児教育の特徴(6)**
- 幼児教育の実践と研究の結びつきの近さがあげられる。
- 養成校における教授もまた現場の教師が移っていることも多い。
- その中で、指導的立場になる研究者はかなり現場に精通しつつ、欧米の理論を取り入れ、あるいは心理学その他の類縁の学問の成果を取り入れて、それを現場で実践されている保育の中に組み入れようとする。
- その努力が日本型の幼児教育の成立と発展を支えてきた。

日本の幼児教育の特徴(7)

- 幼児向け商品やサービスが多様で豊富
- 幼児向けの絵本や教材が充実している
- 民間の幼児教育産業(絵本や教材のみならず、通信教育や習い事教室など)が発達しており、多様なニーズにこたえている
- 国内向けのみならず、海外に広く展開している事例も(ベネッセ、公文、七田式……)

5. SDGs時代の幼児教育協力に向けて

- 日本の教育協力政策:「平和と成長のための学びの戦略」(2015)
- 「教育協りに求められる内容に関しても、学校教育という枠を超え、就学前教育、職業技術教育・訓練、防災・環境教育、保健・衛生教育といった多様なニーズに応えることが求められるようになり、教育の質の向上と、より分野横断的な取組が必要となってきた」との認識が示され、就学前教育の重要性が認識されつつある。

日本の協力の取り組み

- すでに技術協力や研修、拠点構築など、具体的な事業も展開されている。
- 現在、保育研究は国際的にも進んでおり、先進国のトレンドが途上国にもすぐに波及するであろう。
- 途上国の実態とニーズを十分にふまえたうえで、日本の保育の経験や特性を活かした協力活動が展開されることが重要である。

途上国の幼児教育の特徴

- 日本と比較して
- 1. 政府によるカリキュラム規定が強い
 - (現場の自由度が少ない)
- 2. 養育環境の違い
 - (きょうだい数の多さ)
- 3. 知育・知識習得の比重が大きい
- 4. 多言語下での主流言語教育としての幼児教育
- 5. 「教師中心」の教育

幼児教育分野への日本の協力例

- (1) 青年海外協力隊(幼児教育、保育、幼稚園教諭、等)
- (2) 技術協力
- (3) 拠点システム構築事業
- (4) 研修員受け入れ(例:お茶の水女子大学での中西部アフリカ幼児教育研修)
- (5) 草の根技術協力等によるODA-NGO連携事業(例:シャンティ国際ボランティア会)、世銀JSDF(例:セーブザチルドレン・ジャパン)

お茶の水女子大学の取り組み①

「アフリカ・中東への幼児教育研修」

- 案件目標
- 幼児教育・ECDに関する専門知識・日本の経験・手法、研修員同士の意見情報交換等を参考に、自国の課題に対応した改善案が作成され、所属組織及び他関係者へ共有される。
- 単元目標
- (1) 所属組織での問題点を発見・整理し、解決すべき課題を抽出・共有し、改善策を検討する
- (2) ECDの概念・内容・動向に対する理解を深める
- (3) 幼児教育における格差問題とその是正策について理解を深める
- (4) 子どもの発達に応じた適切な保育内容・保育方法・教材作成について理解を深める
- (5) 教員養成・研修のシステムに対して理解を深める
- (6) 幼児教育における評価について理解を深める

JICAからお茶の水女子大学への委託事業

- 中西部アフリカ諸国（セネガル、マリ、ニジェール、ブルキナファソ、カメルーン、ガボン等）：2006－2017
- 中東・アフリカに拡大（2018～）
- 約1ヶ月の本邦研修と帰国後の研修成果の活用、最終報告会（帰国後約半年後、テレビ会議）によるフォロー。
- 国際セミナー（レポート発表とアクションプラン共有）
- 地域間格差：幼児教育・保育への住民参加。子ども中心の保育の現地化。
- 質問紙調査、インタビューによる研修効果の把握

研修実施所感：課題

- ①研修員の強い関心「子ども中心の保育」「保育者と子どもの関わり方」「障害児の保育」
- ②すぐに使える、既製品（教材でも教育方法でも）を求める傾向。教材作成など「すぐ現場で使えるノウハウ」は安易に応用されやすいが、それだけでいいのか
- ③思想や理論の理解
- （理論を踏まえつつ、子どもとの関係性の中で最良の保育を求める姿勢が重要）
- ④社会調査や統計学の知識
- ⑤現地に帰ってからの研修成果活用

国際協力の不易流行

- ① 慈善型 (チャリティ)
- 恵まれない貧者や弱者への慈善
- ② 技術移転型
- 「先進的」技術を途上国の人々に伝達
- ③ 参加型
- 途上国の人々・地域住民がプロジェクトの
- 計画・実施・評価に参加する。自助論。内発的発展
- ④ 知識共創型 (対話型・互惠型)
- Knowledge Co-creation Program

幼児教育協力の「モデル」

- 1. 相互理解 (mutual understanding)
- 日本の紹介とともに、途上国側の状況やニーズを日本側もよく理解する。
- 2. 対話 (dialogue)
- 日本モデルを押しつけない。対話し、一緒に考える
- 3. 現地化 (indigenization)
- 帰国後のフォローにより現地化過程を支援する
- 4. 参加とネットワーク化 (participation and network)
- つながり、ネットワークが形成される
- 5. 互惠 : 双方にとって利益のあるものに。Win -win

お茶の水女子大学の取り組み② 「拠点システムと国際協カイニシヤティブ」

- 幼児教育ハンドブックの刊行
- 映像資料(DVD): 幼稚園の一日
- 幼児教育ハンドブック多言語化
- 幼児教育ハンドブック2: Q&A形式でJOCV隊員の悩みにこたえる
- 幼児教育隊員支援と幼児教育協力の向上
- EFAグローバルモニタリングレポート翻訳
- ECD小冊子刊行

『幼児教育ハンドブック』『Early Childhood Education Handbook』の作成と多言語化

- 我が国の幼児教育の理論と実践を1冊に集約
- 途上国における活動のための実践例、応用のヒント
- 主に日本の国際協力関係者の参考書としての用途を想定

<目次>

まえがき

第1部 幼児教育の考え方

- 1 日本の幼児教育の枠組みと仕組み
- 2 保育において子どもの発達を促す
- 3 幼児教育の実践事例にみる指導の仕方
- 4 乳幼児の発達の概要

第2部 幼児教育の実践

- 1 保育の原理を実践につなげる手がかり
- 2 カリキュラムづくりの概要
- 3 年間指導計画・月案・週案・日案の作り方
- 4 幼稚園の1日
- 5 保育内容
- 6 園の環境の構成
- 7 教材づくり
- 8 保護者との連携-幼児教育の理解と協力に向けて-
- 9 教師自らによる保育の改善の方法

第3部 途上国で幼児教育を支援するために



日本語版



CD-ROM版



英語版

5-3 言語の指導:コミュニケーション手段としての文字や言葉を使った活動

実践的なトピック

文字を知り、本が読めるようになることで、多くの知識を獲得することができます。知識は、言葉や文字を通じて獲得しなければ知識にはなりません。また文字がコミュニケーション手段にはなりません。大人は、文字の読み書きが早くできることを子どもに期待しがちです。でもその前に、様々なお話を聞いて言葉を増やしたり、内容を理解したり、相手に分かるように言葉で伝えたりする経験が必要なのです。

絵本・紙芝居などを読み聞かせる

生まれて数ヶ月の子どもも、絵本を読み聞かせることに注目します。お話の内容そのものに関心を示すのはもっと先ですが、身の回りで見慣れたものを絵の中に見つけて楽しむことから、絵本の世界に入っていきます。子どもたちに語りかけたり呼びかけたりする言葉や、繰り返しのリズムなどを楽しみながら、彼らは言葉の意味と絵とを結びつけてみるようになっていきます。3歳から4歳の頃は言葉に対する力も急速に発達します。ことばを耳から聞いて物語の世界を頭の中に思い描く力、想像力を育てていきたい時期です。親や教師が読んでくれる「声」とさし絵とを結びつけながら、想像の世界に入っていくのです。やがて子どもたちは文字を覚え、一人でも読めるようになっていきます。こうした言葉の発達にあわせて、幼児期に絵本や紙芝居の読み聞かせを通して想像力を培うことは、その後の読書はもちろん、知的な関心にあふれた豊かな生活の基礎を培うことであるといえるでしょう。

教育的意義

絵本や紙芝居を読んでもらうことを通じて、言葉のリズムや響きを楽しみ、言葉の意味を理解していく。

「教育的意義」
→具体的な活動の背後にある「意味」を明示

- ・ 絵本や紙芝居を読んでもらうことを通じて、言葉のリズムや響きを楽しみ、言葉の意味を理解していく。
- ・ 絵本や紙芝居を読んでもらったり、自分で見たりすることを通して、人やものとの関わりが見ついていく。
- ・ 絵本の中から遊びを見つけ、遊びの世界を広げることができる。
- ・ 絵本や紙芝居が好きになることで文字に興味、文章を自分で読んで見ようとする意欲が湧き、将来の学校教育に無理なく取り組む力が育っていく。

絵本・紙芝居などに親しむ



子どもたちが絵本や紙芝居の読み聞かせをし、読み手は、子どもたちに絵がよく見えるように、絵本を身体の前に掲げ、子どもたちに自分で持って読んでいる。

絵本を集めた「絵本コーナー」です。

下段の本は背の部分(本のタイトルだけ)を見せて重ねて並べていますが、上段は、絵本の表紙が見えるように並べてあります。

表紙が子どもたちに見えるように並べることで、子どもたちへの誘いかけになります。

写真を多用



二人の女の子が友だちと楽しく絵本を見ています。そこへ誘われるように別の男の子がやってきて絵本を広げました。

絵本のあるところ、友だちの輪が広がります。

お友達と一緒には絵本を見ています。まだ文字は読めませんが、絵を眺めながらお話を想像しています。読み手も読み聞かせてもらった本なら、いっしょにそのまますべて読んで、まるで文字を読んでいるかのように想像しながらページをめくることもあります。





実習生が子どもたちに話
芝居を興けています。



一枚ずつ絵を扱きながら
進んでいく話に、子ども
たちはひきつけられてい
きます。

時には、手作りの話芝居を見
せることもあります。



自分が描いた絵を、ちょうど紙芝居の
ように見せて、お話を作り出そうとし
ています。

絵本や紙芝居を読む体験が想像力を
育て、それが創造性にもつながってい
きます。

先生を真似て役ごとに声かけて、
読み聞かせをしています。

机に高いクロスをかけて、まるで
お話のステージのようです。



留意点

- ・ 小さな子どもたちに読み聞かせをしてあげるときは、絵本も選びの一つと考え、大人と子どもがともに絵とことばを楽しむ合うようにすることが大切です。
- ・ 読み聞かせをするときは、ゆっくりと絵を見せながら読んであげるようにします。時には、絵の背景に集めて読んであげたりするのもよいでしょう。
- ・ 教師は絵本の方ばかりを見るのではなく、むしろなるべく子どもたちのほうに顔を向けて、話しかけるように読んであげるとよいでしょう。書いてあるとおりに読むだけでなく、「きれいな」「どうしてだろう」などと言葉をはさんで子どもたちに話しかけるようにするのもよいでしょう。聞き手の子どもに合わせて言葉を言いかえてあげてもがよいでしょう。
- ・ 幼児が興味をもった絵本を何度も読んであげましょう。そうすることで、絵本の文章を暗記して、文章の韻なりを意味あるものとしてとらえることができ、やがては意味を理解しながら文字を読むようになるでしょう。

活動を行う際の留意点

活動の応用またはヒント

- ・ すぐれた絵本は、絵の入れ方もよく工夫されています。絵のなかにさまざまな発見があったり、話の展開を想像しやすくさせる工夫があったりします。教師自身がよく絵を見て読む練習をし、ページのめくりかたも絵に合わせて工夫するとよいでしょう。
- ・ 物語の展開を想像させたいときには、子どもたちの表情を見ながら、ゆっくりとページをめくっていき、話の展開に合わせて、絵の一部を隠すようにわざと途中でとめることで効果が上がります。読み聞かせをする教師自身が、そのページの絵と言葉、次のページの絵と言葉をよく読み味わい、読み方をいろいろと工夫してあげると、子どもたちがよるこ読み聞かせになります。
- ・ 絵本コーナーでは、本の置き方を工夫します。スペースにもよりますが、できるだけ本の表紙が見えるように並べておくと、子どもたちが手にとって読んでみたくくなります。
- ・ 季節の変化を知らせていたり、行事への関心を高めていたりするために、意図的に絵本コーナーに入れておくのもよいでしょう。

途上国における活動の 応用とヒント

まとめ

- 先進国における言説(就学前教育重視、関心の高まり)が途上国に伝わるのは時間の問題
- すでに就学前教育の義務化に踏み切っている途上国も
- 海外から「発見」される日本の「強み」
- 日本が協力する意義: 地域との連携、自然の中での子どもの育ち、実践を通じた学びの共同、内から育てる子どもの意欲、生活と学習との結びつき……(生活基盤型の実践)

- 秋田喜代美ほか(2016)『あらゆる学問は保育につながる』東京大学出版会
- ベネッセ教育総合研究所(2015)『幼児期から小学1年生の家庭教育調査』
- 浜野隆(2018)「子どもと絵本を考える」*dandan*, Vol.39, p.35-37.
- 橋本外記子(1999)「絵本と教育(4)：絵本『三びきのこぶた』に対する親の認識と養育志向について」『日本保育学会大会研究論文集』(52),96-97
- Hendry(1986) *Becoming Japanese : the world of the pre-school child*, University of Hawaii Press
- 文部科学省(MEXT[Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology]) (2017)『幼稚園教育要領』(*Course of study for Kindergarten*).
- 小林紀子,木内英実(2005)「幼児の関係つくりとストーリー生成--「三匹のこぶた」を巡って」『小田原女子短期大学研究紀要』(35),18-26
- 厚生労働省(MHLW)(2018)『保育所保育指針』National Curriculum of Day Care Centres
- Lewis, C. (1984). Cooperation and control in Japanese nursery schools. *Comparative Education Review*, 28(1), 69-84.
- Ochanomizu University(2006) *The History of Japan's Preschool and Care*, Center for Women's Education and Development.
- お茶の水女子大学(2018)『学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究』
- OECD(2006)*Starting Strong II*, OECD
- OECD(2012)*Quality Matters in Early Childhood Education and Care:Japan*, OECD
- OECD(2015)『社会情動的スキル』明石書店
- Sánchez et al.(2016) Taking Stock of Programs to Develop Socioemotional Skills: A Systematic Review of Program Evidence. *Directions in Development: Human Development Series*. Washington, DC: World
- 恒吉遼子(2008)『子どもたちの三つの危機』勁草書房
- 内田伸子(2014)『子育てに「もう遅い」はありません』富山房インター ナショナル
- 内田伸子・浜野隆[編](2012)『世界の子育て格差』金子書房
- UNESCO(2006) *EFA Global Monitoring Report 2007*

以下は参考資料

6. 幼児期における親子のかかわり

- 幼児期の子どもは家庭で過ごす時間も長い
- 家庭での保護者のかかわり方も重要。
- 日本の全国調査からも、親の子どもへの接し方と子どもの認知・非認知能力との関係が明らかになっている。
- とりわけ、幼少期の絵本の読み聞かせの学力への効果は高い。
- 読み聞かせに関しては、情緒的サポートが重要(浜野 2018)

「共有型しつけ」と自己肯定感・語彙能力

- 親との信頼関係が成立している子ども: 自尊感情・自己肯定感が高い傾向
- 「しつけスタイル」の研究: 共有型、強制型、自己犠牲型
- 親が子どもの気持ちや親子のふれあいを大切にし、一緒に楽しい時間を共有するようなしつけスタイル(共有型しつけ)の家庭の子どもの語彙力は高い。
- 親がよく本を読み、家族で団欒の時間を大事にし、親子の会話を楽しむ雰囲気の中で子どもは内発的な知的好奇心を発揮して環境探索を行い主体的に学んでいる(内田・浜野 2012)

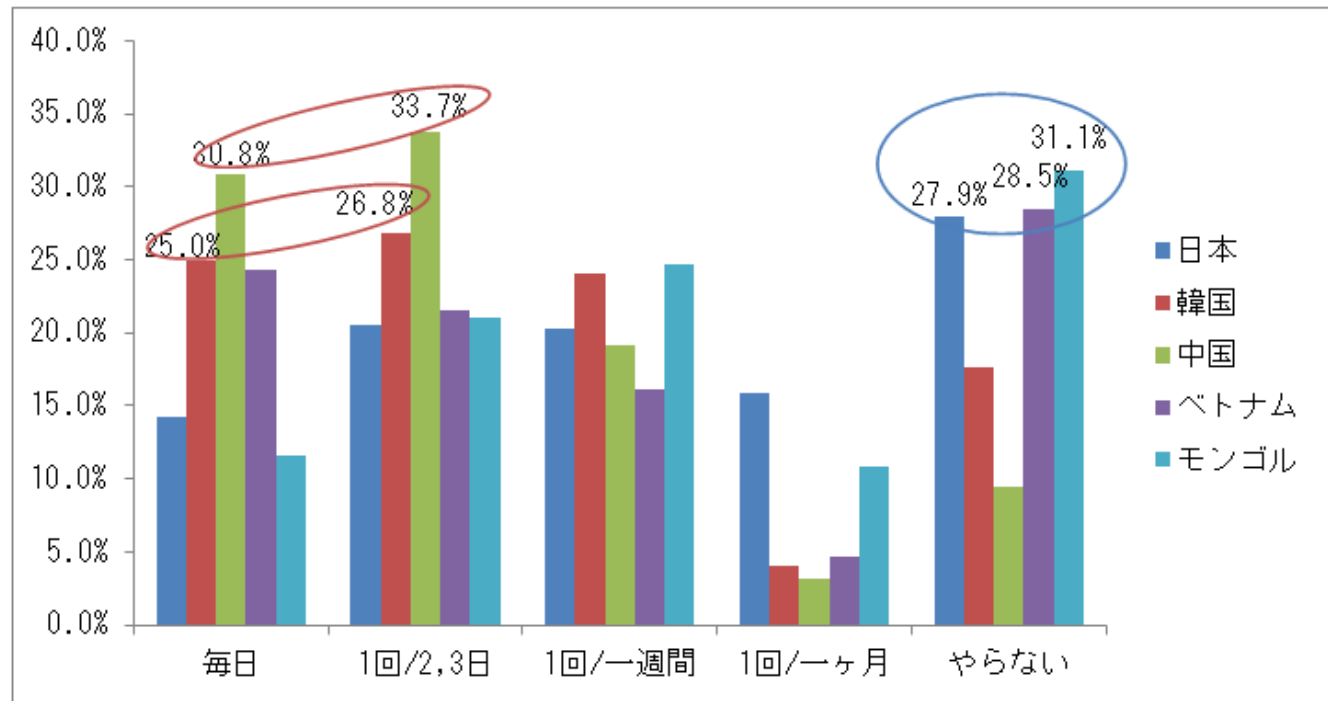
難関試験合格者の幼児期：親は思い切り遊ばせた

- 受験偏差値68以上の大学を卒業し、医者、弁護士、検事、国家公務員一種、家庭裁判所の調査官などの難関資格を取った人の親→共有型しつけを取る傾向
- 就学前にととても意識的に取り組んでいたこと

- - ・幼児期に思いきり遊ばせた
 - ・遊びの時間を子どもたちと過ごすことが多かった
 - ・絵本の読み聞かせをたくさんした
 - ・子どもの趣味や好きなことに集中して取り組ませるようにした

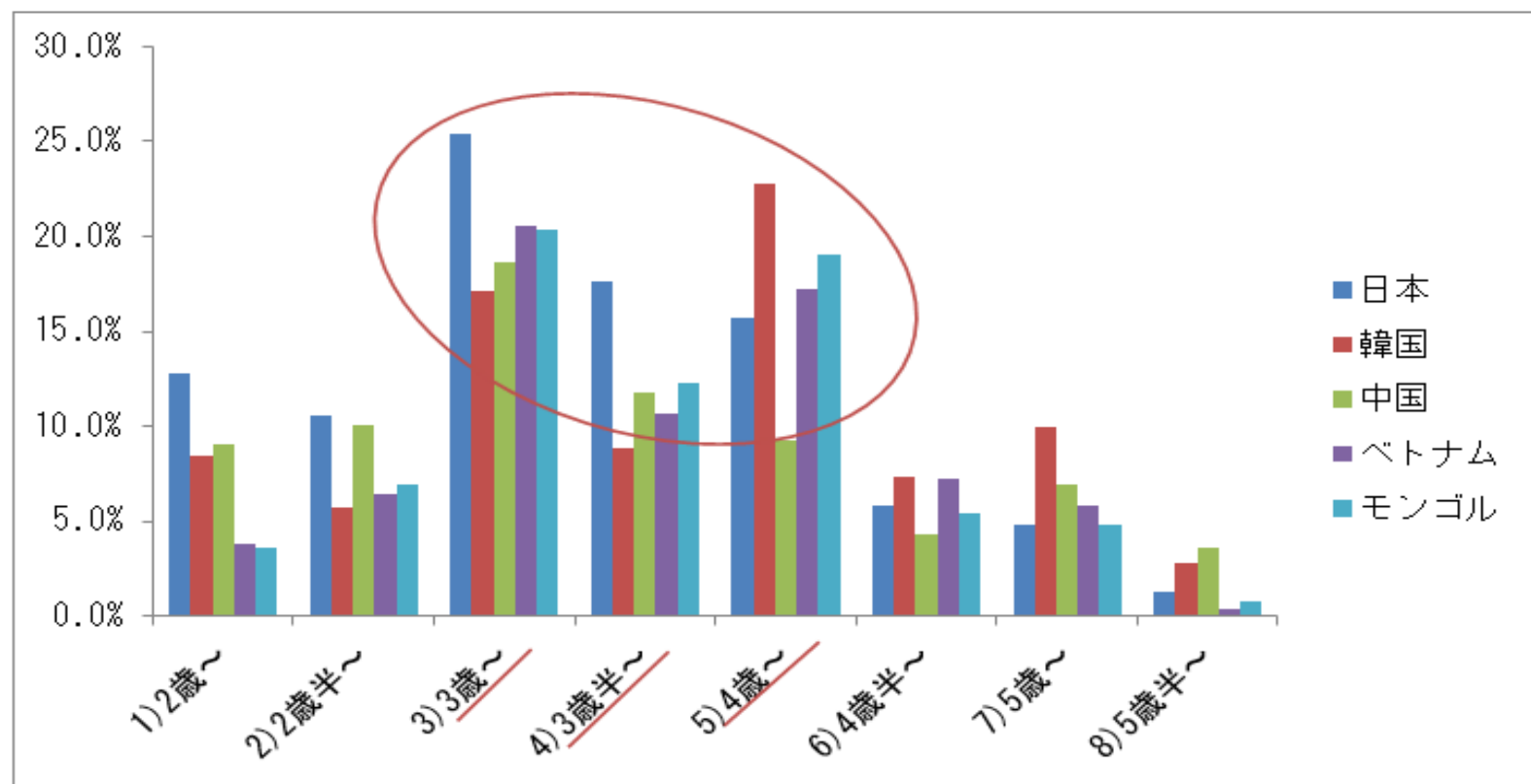
日本の親は子どもにドリルはさせない

(5)ドリルなどをする



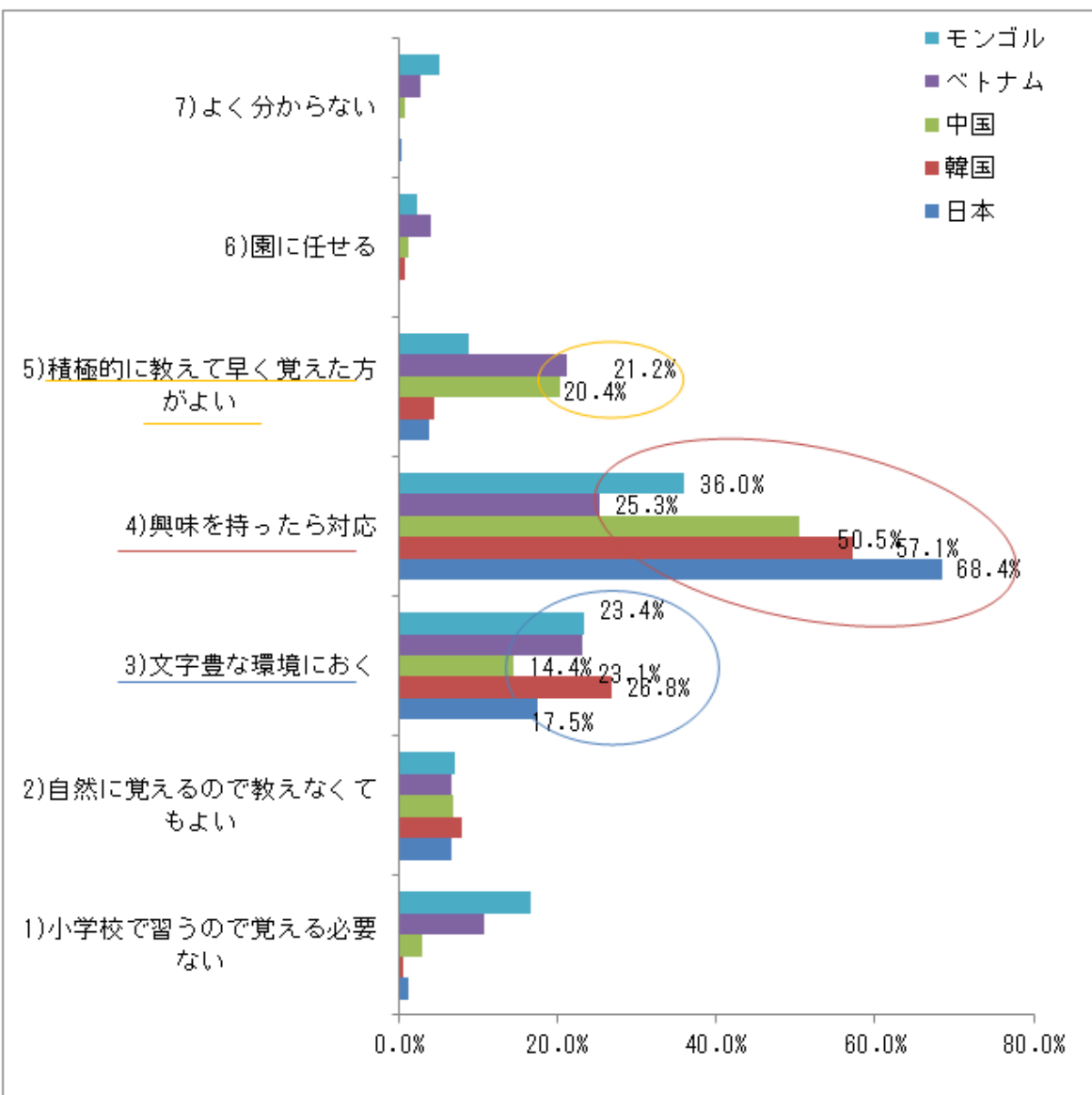
- 韓国と中国では、毎日、あるいは2、3日に一回やっている親の数を合わせると半分を超える
- 日本、ベトナム、モンゴルでは、やらないと答えた親がそれぞれ約3割に達している

日本の子どもは早くから文字に興味をもつ



・五カ国とも、3歳~4歳にかけて文字に対して興味を持つようになる。

10. 幼児期に文字を覚えることについてどのようにお考えですか？(一つに○)

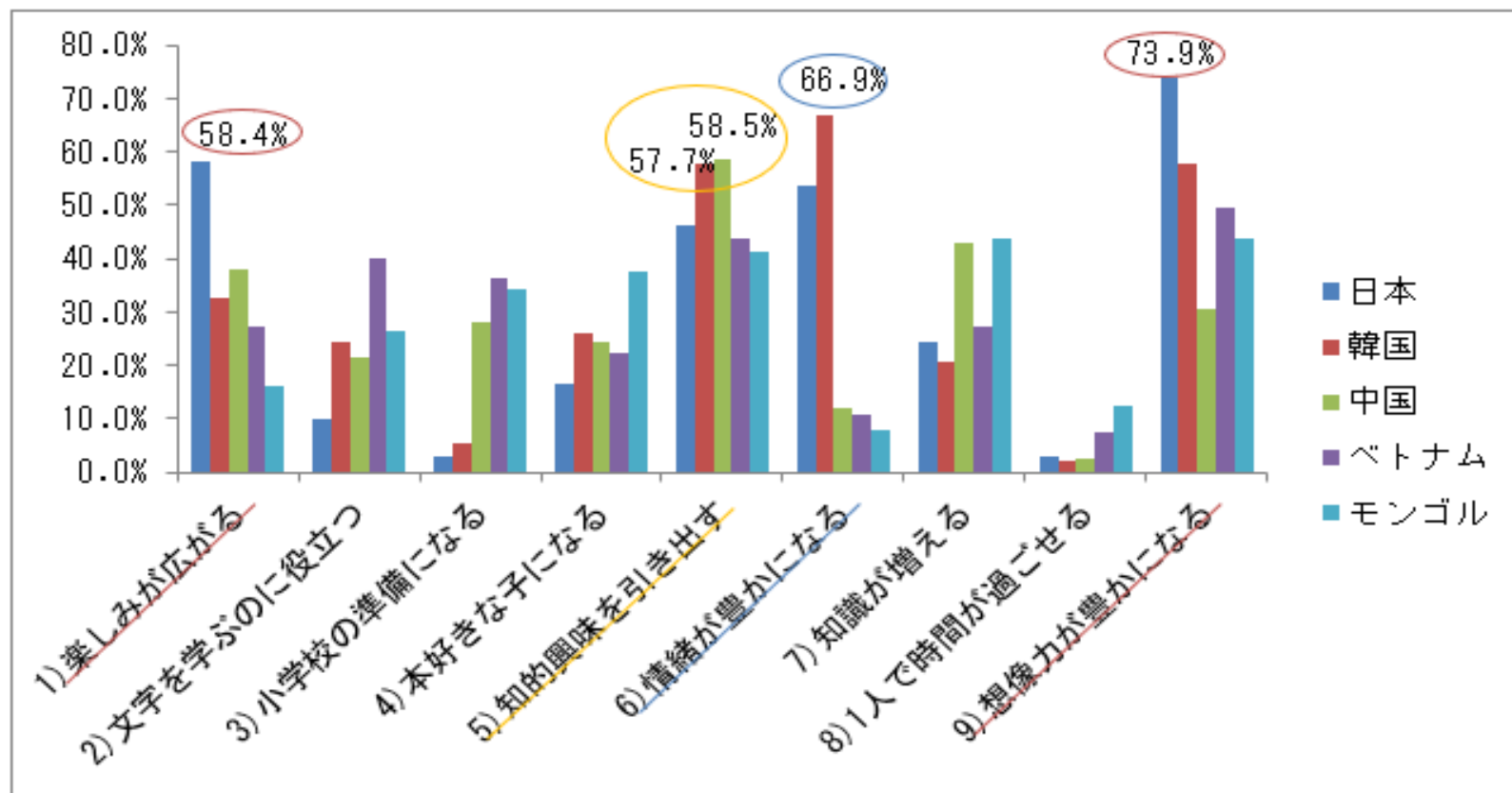


日本の親は子どもの「興味」の芽生えをきっかけに文字を教える

- ・五カ国とも、「興味を持ったら積極的に応じてあげるのがよい」と考える親が最も多い
- ・次に「文字の豊かな環境においてやる」ことが必要と考える親も多い
- ・中国とベトナムでは、「積極的に教え、早くから覚えさせた方がよい」と考える親が2割いる。

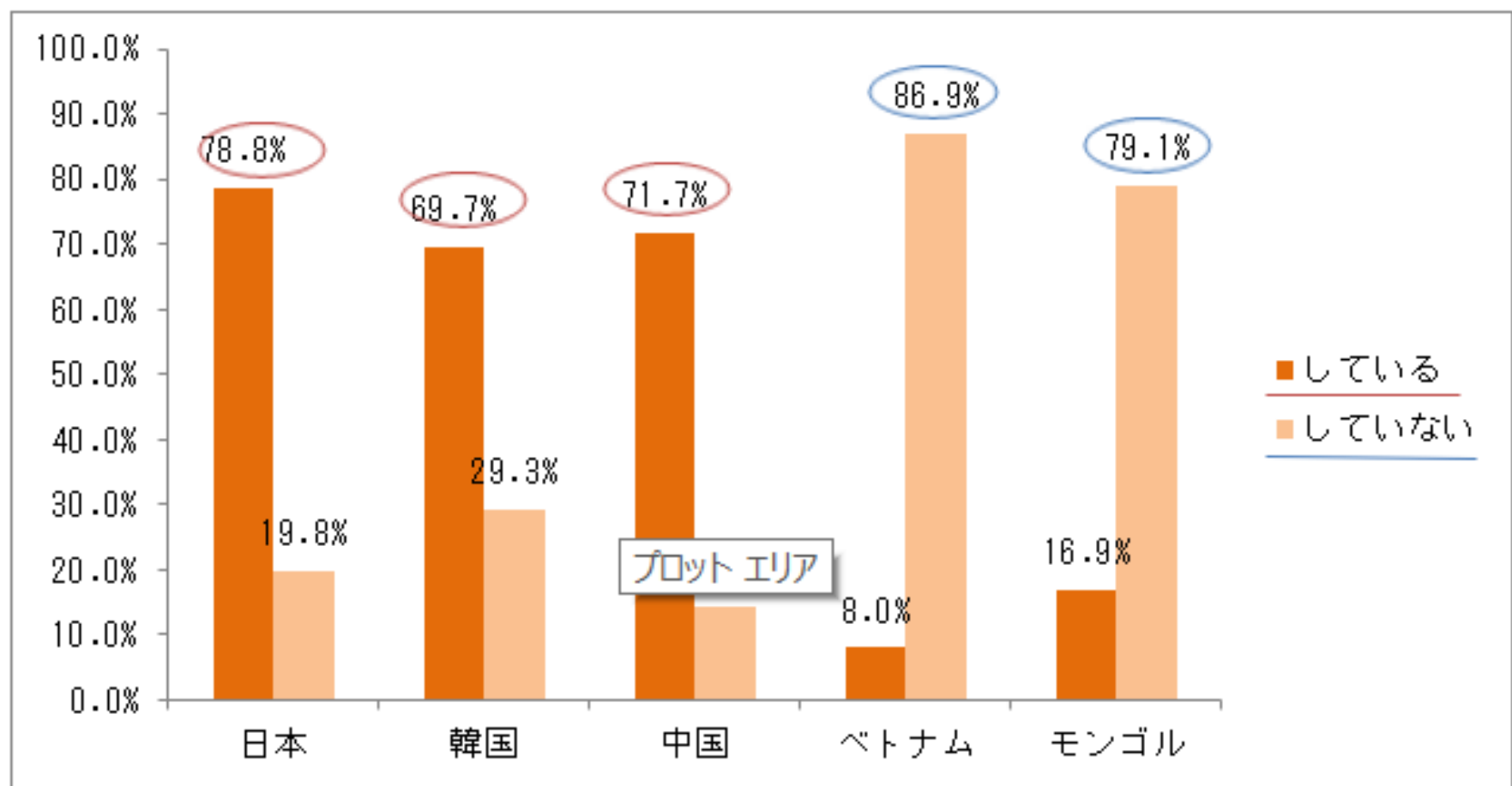
日本の親は子供が本に親しむ意味として、「想像力が豊かになる」「楽しみが広がる」をあげる

13. 幼児期にお子さんが本に親しむことにどんな意味があると思いますか？(3 つまで)



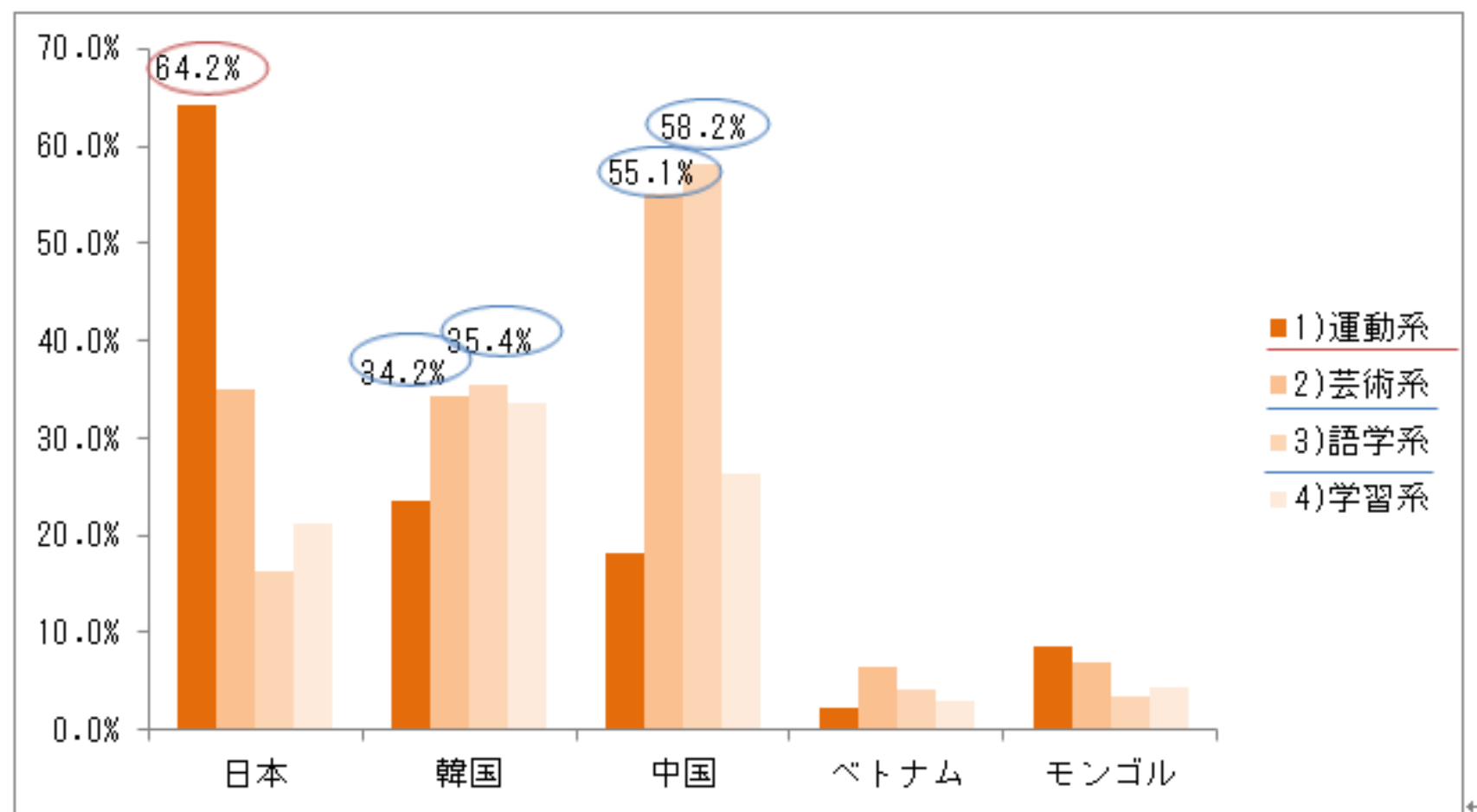
- ・日本では、「想像力が豊かになる」「楽しみが広がる」と考える親が多い
- ・韓国では、「情緒が豊かになる」と考える親が多い
- ・韓国と中国では、「知的興味を引き出す」と考える親が多い

17. お子さんは習い事をしていますか？



- ・ 日本、中国、韓国では7割ぐらいの子どもが習い事をしている
- ・ ベトナムとモンゴルの子どもの8割ぐらいが習い事をしていない

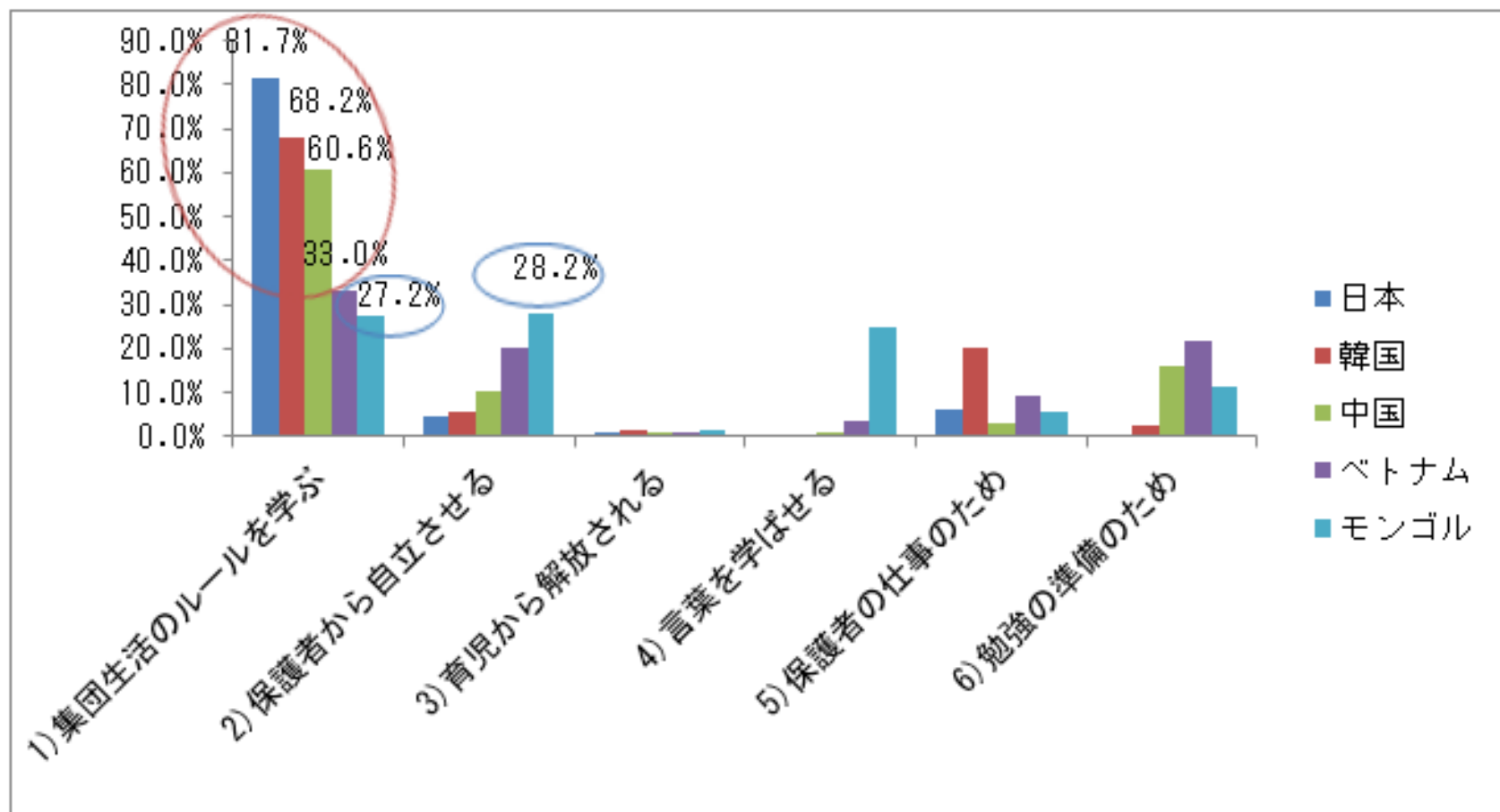
18. お子さんはどのような習い事をしていますか？(複数回答可)



- ・ 日本では、子どもに「運動系」の習い事をさせている親が最も多い
- ・ 韓国、中国では、「芸術系」や「語学系」の習い事をさせている親が多い

21. お子さんを幼稚園・保育園に通わせている理由について、最もあてはまる理由、まああてはまる理由、あてはまらない理由を以下の中から一つずつ選び、番号でお答えください。

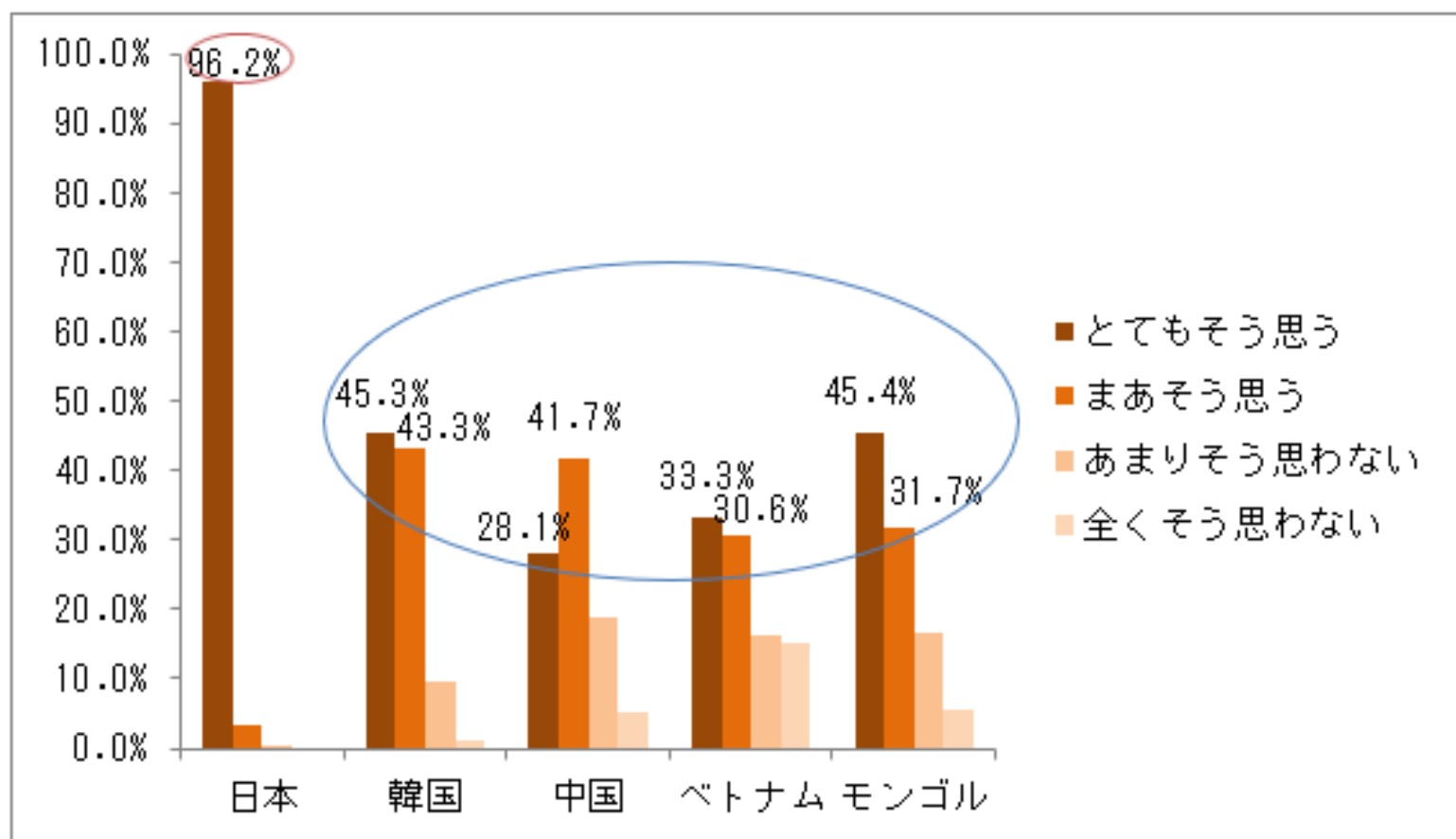
【最もあてはまる理由】



- ・日本、韓国、中国、ベトナムは共通して「集団生活のルールを学ぶ」を選んでいる
- ・モンゴルでは「保護者から自立させる」、「集団生活のルールを学ぶ」という理由が多い

22. お子さんの教育についてどのようにお考えですか？(あてはまるもの一つにチェック)

(1) 園ではたくさん遊んでほしい



- ・ 日本では、園でたくさん遊んでほしいと考える親が非常に高い
- ・ 他の4カ国では、「とてもあてはまる」及び「まああてはまる」を選んだ人が大多数である

0～2歳児の保育内容：乳児保育

- 1. 健やかにのびのびと育つ（体との関係）
- 2. 身近な人と気持ちを通じ合う（人との関係）
- （受容的・応答的なかかわりの下で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を培う）
- 3. 身近な物とかかわり、感性が育つ（物との関係）

■ (Source)MHLW(2018)

1～2歳児の保育

- 領域自体は3～5歳児と同じ5領域。
- 基本的な運動機能、身体機能、発声も明瞭になる。
- 自分でしようとする気持ちを大切に。

| (例)領域 「健康」 | 保育内容(清潔や排泄について) |
|---------------|--|
| 乳児 | おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの <u>心地よさを感じる</u> 。 |
| 1～2歳児 | ・身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が <u>少しずつ身に付く</u> 。 ・便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる。 |
| 3～5歳児 | 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を <u>自分でする</u> 。 |

基本的信頼感とアタッチメント

- 乳児期に形成されるアタッチメントの質が様々な「非認知能力」(社会情動的スキル)の発達に影響をもたらす
- 非認知スキルの絶対的基盤としての愛着形成
- 無条件に受け入れられ・愛される経験が自己肯定感につながる
- 「条件付の愛(できたときだけほめられる、いい点とたっときだけ愛される)」ではなく。
- 基本的信頼感→社会性、想像力、思いやり